



ミズカマキリは、どうやって飼えばいいの

池の中でのミズカマキリの生活

ミズカマキリは、水中でくらし、おしりから出ている呼吸管を水面につき出し、空気を吸って呼吸をしています。肉食性で、小魚やこん虫の体液を吸っています。卵は、水面にういた植物に産みつけ、卵の上方から出ている2本の糸が、空気中に出ているようにしています。卵は、この糸で呼吸するのです。成虫は、明かりに飛んでいく習性があります。

飼うときは、台と水ごけを用意

ミズカマキリを飼うときは、つかまって休める水草を植えます。そして、水面すれすれの高さがある、れんがなどの台を入れ、その上に水ごけをしきます。水ごけには、いつも水がしみているようにします。6～7月ごろ、この水ごけの上に産卵します。かえった幼虫が食われないよう、卵は別の水そうに分けます。卵は2週間ぐらいでかえり、6回だっ皮して、2か月で羽のある成虫になります。

えさは、イトミミズやボウフラ

えさは、幼虫なら、イトミミズ、ボウフラなどで、大きくなったら、アカムシ、羽をむしたハエ、オタマジャクシ、メダカなどをあたえます。体液だけ吸うので、食べかすはピンセットなどで取り出します。夏はずしい所に水そうを置き、水はよごれたら取りかえます。水は水道水に中和剤を入れるか、くみ置きして使います。(監修・中山 周平)

